

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300700		
法人名	医療法人謙昌会		
事業所名	グループホーム あんずの家		
所在地	青森県八戸市小中野五丁目2-5おおまちマンション5階		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokai.go.jp/youho_ip/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0270300700&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「医療機関との連携」 日ごろより入居者の健康面に関する相談や体調変化時の速やかな対応など、医療機関との連絡体制及び連携がとれている。健康維持に不可欠な栄養面に関しては、NST(栄養サポートチーム、医師や栄養士等)と協働し、運動機能や嚥下障害などについてはリハビリ専門職と相談しながら改善に努めている。</p> <p>「地域との連携」 町内会の協力を得て、季節毎の行事に参加したり、交流会などを開催し、地域住民と交流する機会を設けている。また、災害時には協力が得られるよう、連絡体制を整え、避難訓練にも参加していただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>実際に自宅として使われていたマンションを事業所として使用しているため、家庭的な雰囲気に優れており、ゆったりとした空間が入居者に安らぎを与えている。また、5階ではあるが多くの木や花に触れることができるよう中庭を上手に利用している。居室には入居者が使用していたタンスやテーブル、写真等が置かれており可能な限り住み慣れた環境づくりに努めている。地域との交流を大切にしており、地域の各行事等に積極的に参加されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「自由に、のんびりと、一緒に、楽しく」暮らせるように、在宅生活の延長として、地域や自然を取り込んだケアを目指している。職員は会議やカンファレンスの場で意思を統一し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	具体的な理念を掲げ各会議やカンファレンスにて周知している。また、その理念を事業計画に盛り込み実現のために積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物、町内の行事への参加、交流会等を通じ、地域の中で入居者が安心して暮らせるよう支援している。	地域のスーパーや美容室等を利用している。また、地域の各行事や学校行事等へ積極的に参加され、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職業体験学習の受け入れや、認知症介護実践者研修の実習受け入れなどを通じ地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価の結果や取り組み状況の他、グループホームの活動や入居者の状態、オンブズマン訪問報告等について意見やアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議では事業所の取り組み状況を伝えている。また、オンブズマンからの意見についても話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でグループホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え、意見や最新の情報を頂いている。また、運営推進会議以外でも質問や相談をし、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当窓口には事業所の状況などを必要に応じ報告している。また、日々の中での疑問等については随時電話で相談し、対応してもらえるような関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人としての尊厳と自立を尊重し、利用者本位の介護、看護を目指すため、業務マニュアルに「身体拘束排除」を取り入れ実践しているが、マンション5階に位置するグループホームのため、エレベーターホールや階段等危険な場所があり、利用者、ご家族に説明し、了解を得た上で、玄関には施錠し危険を防止している。	身体拘束排除マニュアルを作成し、職員は身体拘束のないケアを実施している。人としての尊厳と自立を尊重し、入居者本位のケアをめざし取り組んでいる。また、身体拘束排除マニュアルを基に定期的に研修を開催し周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修等に参加し、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、理解すると共に事業所内で虐待が起こらないよう常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修に参加し、理解すると共に、必要に応じてそれらを活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書に基づいて説明を行い、入居者、ご家族等の不安、疑問点を尋ね、理解、納得を図ったうえで、文書による契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情や相談の窓口となり、入居者や家族等の意見を直接聞く他、満足度調査を行い要望を引き出すようにしている。また、オンブズマン制度を取り入れ、不満や要望を話せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見はほとんど聞かれないが、満足度調査を年1回実施しており、家族からの意見を引き出すように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営方針や理念に照らし合わせ、協議のうえ決定している。	会議は月1回開催している。会議では職員からの意見が多く出されており、その都度職員間で話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修への参加を奨励しており、職場内でその資格を活かせるようにしている。また、発揮能力評価(自己・他者)を行うことで、個々の努力や実績を把握し、給与や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務能力力量評価を行い、職員の力量を把握すると共に、年間計画を立案し必要な研修(内部・外部)を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会(全国・八戸地区)の会員となり、研修や交流会などに参加することで、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りやサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった場合は、本人の暮らしの意向や、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、良好なコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する場合は、家族等からの質問、要望、不安なこと、困っていることなどに耳を傾け、ホームとして出来ることを説明し、良好な関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の際には、介護支援専門員やホーム担当医、ソーシャルワーカー等と、利用者の状態や状況について話し合い、その時必要な支援を見極め、適切なサービスを利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に応じて、買い物や食後の片づけ、洗濯物たたみなどを一緒に行い、介助が必要な場合は本人の意向を聞きながら、さりげなく行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調や日常生活の様子、言動などを必要に応じて報告し、家族等の意向を伺い、相談しながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を取り巻く人間関係の把握に努め、家族等にも協力していただき、馴染みの場所へ出かけたり、知人や友人の訪問を歓迎する等、これまでの関係が途切れないよう支援している。	入居者の生活歴を「ケースレコード・面接調査表」に作成し、これまでの人間関係や趣味等、可能な限り継続できるよう支援している。昔から利用している美容院に行っている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性や入居者同士の関係を把握し、職員がさりげなく調整しながら、入居者同士が関わり、支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの理由でホームを退居した場合や自宅へ戻る場合など、医療関係者や介護支援専門員等と連携し、本人や家族等が安心して暮らせるよう、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等からの情報や、普段の生活の中の様子、会話などから本人の意向を把握するようにしている。	一人ひとりの思い・暮らし方の希望に添うように、日々の関わりの中で言葉や表情などから把握するように努めている。また、家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族等に情報提供をお願いすると共に、生活の中の本人の様子や会話から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子、本人の出来ること、出来ないこと、言動などを生活記録に残し、職員が情報を共有することで、現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ケアプランの課題、目標、方法について話し合い、医師や看護師等の意見やアドバイスを求め、本人や家族等の意向を伺いながら、介護計画を作成している。	入居者の望むことを事前に面接調査書で確認し、カンファレンスで話し合い、必要に応じては医師にも参加していただき入居者がよりよく暮らせるための介護計画を作成している。家族からの希望については面接時等で随時確認している。	入居者の希望・家族の希望について書面上に残しておくことが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や生活の様子、気づき、ケアの実践などを個別に記録し、職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、通院介助や外出の支援、家族の宿泊など柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の協力で地域の行事に参加したり、消防や地域住民の協力による避難訓練の実施、地域の中学生の職業体験受け入れなど、地域と協働しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続出来るよう、家族等と相談の上、通院介助も行っている。心身の状態や本人の訴え等を伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	一人ひとりのかかりつけ医、受診の希望を把握し、これまでのかかりつけ医及び希望する医療が利用できるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の体調変化や、日常の関わりの中でとらえた気づきなどを看護職員に相談し、協働しながら適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療に必要な情報を医療機関に提供すると共に、医師や看護師から回復状況、退院のめど等の情報を得て、連携しながら、速やかな退院へ繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後予想される入居者の体調変化や対応方法などについて、チームで検討し、看護師の配置や職員教育など体制を整えると共に、医師や看護師、家族等と情報を共有し、本人の希望に添うよう共に取り組んでいる。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連絡を取り、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意向を確認しながら取り組んでいる。また、職員教育についても救急対応及びAED等の研修会を定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している他、定期的に内部研修を開催し、職員全員がスムーズに適切な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル、緊急連絡網を整え、地域住民の協力の下避難訓練を実施している。また、マンションの共同防火管理体制も整備し、住民による自衛消防組織を編成し、役割分担を決め、災害に備えている。	災害・地震など自然災害時のマニュアルを作成し年2回避難訓練にて防災意識を高めている。また、避難訓練には防災協力員も参加し、災害時の協力体制がある。職員の防災意識を高めるために試験形式で行うなど工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事や入浴、排泄などの日常のケアにおいて、一人一人の意思を尊重し、プライドを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応をしている。また、記録類は決められた場所に保管し、管理している。	理念にも掲げられていることから、一人ひとりの尊厳や権利を守るために日々の会話をはじめ人権意識を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で、一人一人が思いを表せるよう、わかりやすく説明し、問い掛けながら自己決定を促し、本人が納得しながら暮らすことが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など1日の流れはあるが、一人一人の希望や体調、気分などに応じて、臨機応変に対応し、出来るだけ希望に添った支援が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて美容院での散髪や毛染めなど、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。また、基礎化粧品やメイクなどで、楽しく意欲的に生活することが出来るよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事をしながら、必要に応じて介助し、食後の片づけも出来る範囲で一緒に行っている。	四季にあった料理や地域の食材を提供している。職員は入居者と一緒に食事をしながら、さりげなく介助を行う等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録に残し、入居者の摂取状況を把握するとともに、状態に合わせた食事形態、量、回数などを考慮し提供している。また、栄養サポートチームで入居者の栄養状態について検討し、改善に向けた取り組みを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの必要性を理解し、入居者の状態に応じて歯磨きの声かけ、見守り、介助を行っている。また、必要に応じて、歯科受診介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンや習慣を活かして、排泄の兆候が見られた場合はトイレに誘導するなど、失敗やおむつの使用を減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者の生活パターン、排泄パターンを把握し、排泄の誘導、支援を行っている。現在オムツ使用者は2名となっているが、なるべく使用しない様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	乳製品や野菜、寒天などを献立に取り入れている他、水分摂取や運動を促し便秘の予防をしている。また、自力で運動が出来ない方には、腹部温電法やマッサージなどを行い、出来るだけ下剤に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて、臨機応変に対応している。入浴時のリスクを考慮し、マンパワーを確保出来る日中に、満足のいく入浴が出来るよう支援している。	併設しているデイサービスの浴室を利用し、週2回入浴されている。その他にも希望があれば対応することができ、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活パターンやその日の活動量、体調、本人の希望に応じ、午睡や休息を促し、夜間不眠時には、温かい飲み物をすすめたり、話を聞くなど、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬の内容(目的、副作用、用法、用量)をファイルにまとめ、必要時にはいつでも見ることが出来るようにしている。毎回、服薬確認を行い医師の指示通りに服薬出来るよう支援すると共に症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片づけや、自室の掃除、買い物などの、個々に合わせた役割、季節毎の行事や誕生会、地域交流などの楽しみごとにより、張りあいや喜びを感じることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブなど、その日の入居者の気分や体調に留意しながら、希望の場所に出かけられるよう支援している。また、戸外での行事(お花見など)にご家族と一緒に参加出来るよう機会を作り支援している。	入居者の希望によって週数回外出支援を行っている。また、お花見などには家族も参加され入居者と過ごす機会を作っている。その他年2回、家族が参加できるイベントを開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心感を得られ、社会性を維持するためにも重要であることを職員は理解しており、入居者の希望や能力に応じて少額のお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者一人一人の状況や持っている力に応じて、個別に電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはブラインド、廊下にはすだれを取り付けて光の調節をし、温度、湿度も入居者に合わせてこまめに調節している。また、ベランダに季節の花を植え、心休まる空間作りをしている。	全体的に明るく、暖かい雰囲気である。共用スペースでは入居者が交流しており、狭すぎず、広すぎないスペースが安心感を与え、心の休まる空間となっている。トイレは一部段差はあるものの、職員の介助にて不便なく使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはテーブル席の他にソファを置き、玄関ホールや廊下には椅子を置く等、入居者が一人で休んだり、気の合う入居者同士と一緒に過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者やご家族と相談しながら、馴染みの家具や寝具、食器などを準備していただき、居心地良く、安心して生活することが出来るよう工夫している。	使い慣れた物や馴染みの物を持ち込めることを話している。各居室には入居者の使い慣れた物が置かれたり、写真が飾られている。また、畳の居室もあり自宅に近い環境となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレ等に手すりを設置している他、車椅子用の洗面台を設置し、安全面に考慮しながら、入居者の身体機能に応じて、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		